京城新聞

東拓の遺策

東洋拓殖會社の創立に就ては桂侯及曾禰子等の盡力せられたるは世人の熟知する所なり、伊藤統監の如きも其始に於ては充分なる贊同をなさゞるが如く傳へられしも、其實統監たる職責上より韓國民の意嚮如何を氣遣たるものにして、爾來直接間接に其創立を援助せられたるや明なり、斯の如く統監の調和を得て創立せられたる拓殖會社[illegible]は何ぞや、而も總裁の如き[illegible]の智者が其首腦たるに於て、曾禰子の如き能く物の肯綮を晤み理に達觀するの明ある人の努力あり、常識圓滿にして機微を察するの明あり而も韓國の事情に通曉[illegible]議般の協議に與れるにも拘らず會社前途の經營に最も至大の關係あるべき先驅奮闘の健見たる在韓十五万の同胞を度外視するが如き觀あるを怪まざるを得ず、之れ會社創立に於ける遺策に非ずして何ぞや、桂侯も伊藤公も宇佐川中將も其他の創立委員も韓國民の反對あるべきを顧慮したるものゝ如く、之に對しては大に努めたる處ありたる爲か能く其間を緩和して帝國の眞意を諒解せしめられたるは余輩の諒とする所なれども、只惜むべきは韓國民の反感のみに重きを置きて、帝國の韓國經營に最も効蹟ある在韓十五萬の同胞を輕視するに至りては全く施設を誤れるものと云はざる可らず、韓國經營の今日迄に進捗せるは先驅經營者の効蹟多しとなす、百の統監ありと雖も一人の在留邦人なくんば能く今日の進境を開拓するを得んや、在留十五萬の同胞は帝國の韓國經營に於ける生命たりし也、國家は國家の功勞者に薄幸なる可らずとせば先驅の在留者を尊重するの義務なくんばあらず、而して拓殖會社は此一圖に向て更に意を留めず新規なる移住者及韓國民にのみ偏する傾きあるに至りては前途の經營上其可なるを見ず、在留邦人と雖も度外視せらるゝに於ては勢い好感情を寄する能はざるなり、若し夫れ余輩をして露骨に言明せしむれば十五万同胞の反感を買ひて何等の利する所ありや、更に一歩を進めて考るときは會社が之を無視するとせざるとは會社の經營に大關係を及ぼすなり、試に統監政治の初期に見よ舊人驅逐策は見事に失敗したるに非ずや、況や韓國内地の事情に精はしきを要する拓植經營に於てをや、事情不通言語不解の爲には韓人との間に兎角の悶着は免れざるべし、何れの點より見るも新移住者のみに依りて經營をなさんとすれば其失敗は瞭々たり、是を知りつゝ統監政治失敗の轍を踏まんとするに至りては愚も亦甚だしからずや、拓植會社の首腦には多智多才の人物あるに拘らず、此見易き事を閑却して之に顧慮する所なきは[illegible]するに塵を追ふ癡夫は山を見ざるの類ならん乎、幸に今に於て其過を反省するに至れば失敗の轍を踏まざるべし、余輩は會社の首腦に向て深く之を警告せんとするものなり。



（六十八）　河合柳葉

御室家の奥まりたる一室で、相對して坐つて居るは、侯爵爲雅と家令楢川道恭の兩人である。いつもは何事にぢや、爲雅が居室の次室から言上するが常であつたが、今日に限つて別室で、しかも互ひに改つた様子さへ見ゆるのは、何か仔細のある面談でもするのであらう。

道恭は例の折目正しい袴の上に手をれいて「昨日御後室様から承りますれば、此度れ連遊ばしました御女中は恐れながら御前様の御徒然を慰め申す、れ側妾に遊ばすやうに聞きましてございまするが、これは眞個の義にございまするか、更めてれ伺ひ申したうぞんじます。」と、促し難き様子で問ひかけた。

爲雅は、豫て期したる事とて、敢て驚きたる様子もなく。

「實はまだ歸邸匆々で其方に話して聞かす隙もなかつたが彼女と云ふは身分素性も正しいもので、予が京都に滯在中、方ならず病中の世話をして下れたゆゑ、是非予に附いて東京に來たいと申すから、召連れて歸邸致したもので、眞個母上から仰せられた如く、予の徒然の相手を致さす考である。から其方もどうか可愛がつて遣て下れ。」

案に相違の爲雅が挨拶に、道恭は覺れず坐り寄つて

「何と仰せられまする……しからば眞個れ側妾として連れ歸つたと仰せられまするか」「しからば恐れながら、不肖道恭が申上げること一通りれ聞取をれ願ひ申します。なる程、彼の女中は氏素性も正しいものでございませう、又御前様の御病中の御看護も致したでございませう。殊には御前様の御意に召す程でありますから、れ美しうもございませうし、御聡明でもございませうが、此の道恭はどうあつても御賛成申上げる譯には参らないのでございます。御賛成申上げる事がならないのみならず、速に御断念遊ばして御暇を御遣しなさるやうにれ願ひ申すのでございます。何故かなれば、れ姫様をれ迎へ遊ばしました上でれ兄様方でもれ在なさらないとか申しまして、或は御相續の御者もれ在もなさらないとか申します場合は、これは世間に往々ある事でございますゆゑ、れ側女をれ置きになりましても致方はございませんが、御前様には、これから御姫様をれ迎へ遊ばさうと云ふ、云はゞ大切な時期でございます、若も左様な事が世間へ洩れ渡つて御覽遊ばしませ、第一御結婚の妨げにもなる道理でございます、他の新華族の方々がなさる事ならまだしもと申す事もございまするが、御同族の中でも他人も羨む御名門の御室家に於ては、世間から指差されるやうな事がございましては、皇室へ對しましても相濟みませず、御先祖様は勿論のこと、御親族の方々に對しましても、申譯のない事に立至りまするゆゑ、此處の處を篤と御賢考下されまして何卒一日も早くれ暇をれ遣はし遊ばしまするやう、幾重にもれ願ひ申し上げます。」と、忠義一圖の道恭であるから、涙を流さんばかりに、道理を盡して諫言した。

爲雅は何と答へるであらう……



▲無料紹介欄▼

入事部

●與職商に多年經驗あるもの雇はれたし年十九　氏名在社（一〇五）
●官衙の給仕に雇はれたし年十八　氏名在社（一〇六）
●被傭度　陸軍一等機關兵年廿六　機械類の運轉取扱へ雇はれたし普通學有誰にも運ず給料多きを不望　氏名在社（一〇七）
鹿兒島縣人有馬氏の住所を問ふ　同縣人（一〇八）
●雇はれたし　年三十九中等教育有算術（簿記？）病院會社の受附又は商店の帳場員を望む　氏名在社（一一二）

店員入用　新炭商に經驗ある者
名簿入たし　壽町三丁目今瀬商店（一一一）

●雇れたし　年廿六身体頑健職業を撰はす相當の家に雇れたし　氏名在社（一一三）
●店員入用　保證人ある十六才以上十八才までの人至急入用　氏名在社（一〇九）
●看護婦至急入用　明治町二丁目松岡醫院（一一八）
●女子見習生募集　委細面談　本町六丁目中村齒科醫院
●韓語速成教授　本町六丁目六五韓語速成講習所

嵜村君よ御親切なる御言葉厚く御禮申上候　石村生（一一五）

下女入用　望の者は本人來談あれ　氏名在社（一一六）

女中入用　裁縫の心得ある人を求む　旭町一丁目號慶所（一二〇）

●英韓語無料教授自午後六時至九時水樂町三丁目二十一番戸ノ四　上田生（一二二）
●二十歳迄の店員五名身元保證人ある者雇入たし　姓名在社（一二三）
●雇はれたし　年廿六西洋料理に熟練傭料理店又は素人家にてもよし給料不望確實の保證人あり　氏名在社（一二四）

物件部

賣地　本町八丁目通り地所四十坪温突十間建家の價格安にて至急賣却　姓名在社（九九）
賣地　京仁線龍山停車場近所在上水田四石落安價にて賣却す希望者は至急申込あれ　旭町二丁目京城興信所（一〇〇）
便利の場所にして電話の備もあり官衙向き八疊四疊五つ間二階貸間あり電話六六五九番に御照會あれ（一一〇）
臨付貸間あり　氏名在社（一一七）
古着　其他御不用品買受けたし　旭町一丁目號慶所（一一九）
貸間　地町一丁目便利の場所にて六疊二階貸したし望の方は御來談被下度候　旭町一の六十京仁商會（一二一）

●漢城便り

▲伊藤統監銅像建設の議は元老大臣及び著名なる政客間に有之候由至極結構なる思附と被存候、韓人と雖も矢張り人間の事なれば公の偉徳は常に彼等の諒解せるところならんと被存候、果して而らば公の偉徳を銅像に因つて傳へんとするも決して偶然に非ずと被存候

▲寒暑公に在ること是非三年其間在住邦人には兎も角、多數韓民には兎も角[illegible]

●余輩は銅像建設の議を見て[illegible]

[illegible]や人道主義の本尊たる公の銅像をパゴダ公園若しくは南山の一隅に於て拜することを得るに至らば余輩の感ずる愉快の程度如何に大なるべき、今日に於て到底銅像の外に有之候

●長谷川軍司令官は近々歸京致さるならんとの風說傳はり申候、而れども余輩は此風說を信ぜず、又信ずることを欲し不申候、[illegible]

●[illegible]

●[illegible]朝鮮新聞[illegible]

東京電報

●稻垣氏の叙勳　西班牙公使稻垣氏は勳一等に叙せられ瑞寶章を賜はる

●興銀の債券　佛國に於て發行の興業銀行債券百萬磅は來月中に英國に於て發行の興業銀行分百萬磅は明年五月中に拂込の事となり[illegible]

●後藤男の功勞　後藤男爵は滿洲及び臺灣に在職中の功勞に依り金杯一組を下賜せらる（以上廿六日發）

光州電報

●暴徒駐在所を襲ふ　昨夜暴徒約五十名和順駐在所を襲ひ交戰三時間の後撃退す我無事なり

▲財務署通譯殺さる　昨夜光州郡內に出張中の財務署通譯佐々[illegible]は暴徒の爲めに慘殺さる（二十五日發）

統監府

●韓太子の近狀　韓皇太子には二十二日午後一時御出門趙武官長以下各供奉員を從へ演陛宮に御成りて[illegible]御運動御散步遊ばされ四時過還御相成りたりと云ふ

●伊藤統監の謁見　伊藤統監は二十七日午前十一時を以て新任統監府附武官陸軍大佐波[illegible]、春日艦長大佐[illegible]副長中佐[illegible]次郎機關長機關中佐[illegible]韓地初太郎軍醫長[illegible]技術長大尉淡中晴海[illegible]北島屋作同枝原百[illegible]近藤登三郎藤井信[illegible]鯨井卓爾の十六氏及び目下來韓中の大倉喜八郎氏を帶同韓皇陛下に謁見せらる

●滿鐵總裁候補說　後藤男が滿鐵總裁を辭して遞相たりし以來後任總裁の椅子を獲んと運動せるもの五名ありしが今回鐵道院新設せられ遞相が同院總裁を兼ね滿鐵を監督するに至りたれば滿鐵總裁は是迄の如く無名の總裁として滿鐵を監督すること能はざるべきを[illegible]運動一層激烈を極めつゝあれば意外の邊より新總裁を見ることあるべく伊東巳代治子も亦一人なりと

●日英博覽會　英國に於ては英佛博覽會の好績に鑑み更に日英博覽會開催の希望あることは坂谷男の歸朝談にも見ゆるが此事は先頭來彼我兩政府の間に內交涉あり談稍や進みつゝあるも文書上にては不充分なるを以て和田總長の歐米視察を機とし同總長をして英國政府と直接の打合せを爲さしむる筈なるが交涉の結果は同行の別府事務官之を齎らして歸朝する筈なりと云ふ

●統監銅像建設の議　伊藤統監の偉勳を以て公の銅像を建設せんとするの議は先に來金允植外二三元老の主唱に因り現內閣員及び前閣員等の間に賛成者を募りつゝありしが金元老は近日一同を代表して統監の內諾を請ひ而る上にて計畫を公表し建設費の醵集に着手すべしと云ふ、因に太皇帝及び現皇帝にも右の事には甚く贊成せられ居るとの事なり

●一進會の現狀　窮迫せる一進會と題して萬朝報に掲げらる所に依れば韓國一進會長李容九氏は八月下旬以來滯京中なるが、彼れが目下の境遇には一進會の現狀と共に頗る同情すべきものあり日露戰爭の際、宋秉畯氏の我軍の通譯たるや韓人をして大に日本に聲援せしむるの必要を感じ大に無職の徒を召集して一進會を組織し、兼ねて侍天敎徒を誘ふが爲め、先づ同敎首領李容九氏に說く所あり、斯くて宋氏は其の目的を遂し、時として我軍の爲めに勞役を助けしむる等、漸く他日活動の地盤を作り得たるも、一進會の經費に就ては當時僅かに我軍より二三萬圓宛の支給を受けたるに過ぎず殊に平和克復後軍隊よりの支給全く杜絕するに至れるを以て餘儀なく統監府の機密費中より多少の補助を仰ぎ、一方林野拂下げ乃至郡守が徵收す[illegible]員を養ふに足らず伊藤統監は內田良平氏をして一進會の操縱に任せしめたるも經費支給に就ては相變らず等閑せるものゝ如くなりき、仍て昨年五月[illegible]九に給與し、僅かに一時を凌がしめ得たるが、伊藤統監が李完用、宋秉畯等を擧げて現內閣を組織し、讓位、解兵、韓條約の事終るに至つて一進會は又更らに一層の窮境に陷り、又々統監府より數萬圓の補給を受けて、所謂自衞團なるものを設け地方暴徒の鎭壓に任せしかど、兼ねて同會員を蛇蝎視せる韓民は之れが爲めに却て徒黨を組んで所在蜂起するの形勢となり、其の結果自衞團の事業全く失敗に了るの已むなきに至れり、而して此の間に宋秉畯氏は內閣の大立物として勢望漸く加はり一進會の窮迫せるに似ず、殆んど全盛を極むるに至れるより端なく李容九氏以下一進會員の怨望を買ひ、兩者の間自から相快からず李容九氏獨り焦慮せしも何の効なく會員の怨嗟の極、危害の其の身に及ばんを恐れ、匆惶日本に脫れ來れり、蓋し李氏が一縷の望みは東洋拓殖會社に賴りて會員の處置を講ぜんとするに在り、乃ち宇佐川中將に其の意を仄めかす所ありしも本來眞面目なるべき東洋拓殖會社が到底應ずべしとは思はれず云々と之れ多少異相を穿てるものならんか

●拓殖委員會延期　東洋拓殖會社にては大藏大臣歸京次第創立委員會を開き株式割當を決定する筈なりしも臺灣、光州、咸興、鏡城の分約五千株の申込書豫定の日限を經過し居るも到着せざるに付電報にて通牒ありし數と多分の差違はなかるべきも申込書到着調査の上ならでは割當を決定する譯に行かざれば隨て創立委員會も豫定より兩三日の延期を見るべしと云ふ

●信用組合の近狀　仁川信用組合の資金申込に就て目下理事者の手許に受理せるもの僅に百五十株に過ぎざれど口掛りのもの頗る多き模樣なるが時恰も年末に際し今後益々金融逼迫ならんとするの傾向あれば市民中充分其必要を感じつゝも尙は其申込を躊躇するの氣味ありて本年中には到底豫想通りの成蹟を生むこと困難なるべきを以て暫く形勢を傍觀し明春稍景氣挽回の兆候を呈すると共に一大飛躍を試みる筈にて今は殆んど其觀務を放任し居れる姿なりと云ふ

●坂出技師の演說　去る廿四日經濟協會に於て坂出技師の演說大要は左の如し

港の設備

港と申しましても商港に關する御話であります港には如何程の要件が入るかどれ程の設備が入るか所謂海陸連絡なるものは如何[illegible]まなければならんか[illegible]まとめて清聽を煩はしたいと存します港は大別しますと（一）高潮を利用する港（二）開放せる港タイダルハーバー[illegible]

（一）は潮の干滿の差甚だしき所にある港で高潮を池に留めて閘門によりて船は此の池に出入し外海の潮の干滿に無關係に繫留して荷役をする仕掛になつて居ります（二）の開放せる港にありては潮の差さほどにないのを好みまして船は自由に此の港內に出入の出來る次第であります前者の例は歐州のリバープールとか倫敦の港とか佛國のアーブルなどが夫れであつて日本にては三池の築港が其一例であります後者の例は日本の橫濱大阪神戸其他東洋の諸港歐洲では地中海岸のマルセーユ、ゼノア、ツリエスト又は紐育等が其適例でありますしよう何れにも其長所短所がありまして港の良否は內港の設備に存する次第であります

次に理想的の完全なる商港として最も必要なる資格を考ますると左の通りと思ひます

（一）地勢即ち天然的又は人工的に波浪の浸入のない船懸けが必要であります大波浪が港內に襲來する樣にては船の龍骨が海底にあたる心配があるからして自然船は遠く沖合に離れてからねばなりません此く船を可成陸付によせるが港の主旨でありますから即ち地勢の必要があります或は防波堤を以て地勢の欠點を補ふ必要がありましよう（未完）

●善隣商業開校式　善隣商業學校にて大倉喜八郎氏の來韓を機とし明廿八日午後一時より其開校式を擧行し式後日本人俱樂部に於て來賓に立食を饗する由なり

●水道工事の解決　豫ねて仁川民團より內部土木局に交涉中なりし水道工事に關する件は同民團に於て配水鐵管敷設及び給水支線に要する道路の使用料は無償たることを承認し又た土木局に於て民團が將來市區改正其他の事故に依り道路を變更し隨て既設鐵管を他に移轉せしめざるべからざるの場合無料にて之をなすべきことを承認することゝし此程圓滿なる解決を遂げたりと云ふ

●漢江航路標識見合　仁川より龍山に至る航路即ち漢江流域に敷設せらるべき航路標識敷設問題は仁川商業會議所が仁川燈臺局の斡旋に由り韓國政府の許可を受け既に仁川燈臺局に於て去月來材料を蒐集し本年中に同江に敷設する計畫にて其の準備工事をなし居たるが目下同江は結氷期に近き航路全く杜絕したるを以て今其の敷設を見るも何の効果もなく又冬期結氷中に其工事をなすは頗る困難なるを以て仁川燈台局にては本年中に同工事に着手することを見合せ來春早々結氷解溶するを俟ちて着手することに決したりと云ふ

●鎭南浦穀類激增　昨日鎭南浦より仁川に渡來せる某汽船長の談る所を聞くに同地は來月中に結氷するを以て目下沿岸各地より出穀するもの非常に增加し[illegible]る激增し每航船腹の過半を推む程なるが昨日仁川に入港せる筑後川丸の如きは同地にて新穀を滿載したるを以て仁川にては一品も積入せず長崎に直航する筈なりと

●商業會議所會議　仁川商業會議に於いては豫報の如く本日午後七時より同所樓上に於いて總會を開き收支決算の件穀物檢査に關する件外二件に就き協議する筈

●平安南北道の私立學校　平安南北道を視察したる某氏の談によれば南道永柔郡北道宜川鐵山地方の私立學校は解隊將校を雇聘して敎師となし學術の修得には顧念せず學生に木銃を携帶せしめて盛んに兵式体操のみを行ひつゝありて彼等は國權の恢復は國民を軍隊的に敎養するに在りと囈語し國民敎育の前途のため誠に憂ふ可き狀態に在りと云ふ

●春日艦乘組員入城　伊藤統監を乘せて一昨日仁川に入港したる軍艦春日の乘組員一同は昨今の兩日交替にて一日三百人宛入京し景福宮の拜觀をなす筈なりしも仁川港外は昨日朝來風浪高く爲めに小蒸汽の航行困難なりし爲め昨日は見合したりと

●暴徒討伐　全羅南道光州守備隊の特務曹長以下十五名は巡查二名と共に十一月廿三日光州北方約二里大峙にて約三百の賊に衝突し賊は頑强に抵抗して退却せず我兵一名即死し在光州守備隊長は守備隊の全部を擧げ即日同地に急行せり

●ベンチット氏の退職　仁川各國居留地會議員野口彌三氏及びベンチット氏は來る十二月三十一日限り之を退職することゝなるべし

●樂友會第七回音樂會　同會は南山公園奏樂堂建設殘務多忙の爲め演奏會を開催するの運に至らざりしが十二月第一日曜日（六日）午後七時より三好町歌舞伎座に於て第七回音樂會を催す由なり當日は無料にて一般の入場を希望する所なるが入場員に限りあるを以て招待券持參者のみに入場を許すことゝなれる由定めて盛會を見るならん又本年は是にて最終とし來年三月迄休會とし同月は又々大會を催すと云ふ

●漢城病院の日曜廢止　漢城病院にては從來日曜日は休業せしが今回居留地患者の便宜を顧み日曜日を廢止し常日の如く午前九時より午後三時迄執務し一般患者の來往診察及治療に應ずることゝなり同時に院長の往診料十圓、副院長五圓なりしが是又中等家庭以下の事情を酌量して單に車代として一圓宛の往診料を徵收することに[illegible]一層[illegible]すべしと云ふ

●地方學事視察　澁谷學部事務官李同書記官（敏應）は京畿黃江原道忠淸北道の普通學校及び私立學校本田書記官は慶尙南道の[illegible]を命ぜられ何れも此の程出張す

●明治大學校友茶話會　同校京仁支部校友は昨二十一日午後二時より明治町二丁目小宮宮內次官邸に於て茶話會を開催したるに出席者六十餘名にして席定まるや幹事高橋章之助より開會の辭を陳べ會務の報告を爲し續て役員の改選を行ひたるに滿場一致を以て再選せられたり選擧終るや座長たる小宮次官の指名により藤田謙一、滿淵正氣兩氏の痛快なる演說次に小宮次官の演說並に興味ある談話等あり談笑數時散會したるは午後六時なりと云ふ

●仁江間電話架設　仁川郵便局村上電話係長が過日仁川、江華島間の警備電話架設に付て實地踏査を遂げ歸任せる結果曾て永登浦、金浦、陽川、通津を經て江華に至ると富平金浦陽川通津を經て江華府に至るとの二說ありしもの其後者を採り且つ江華府より乾畫に延長することに決し昨日より測量に從來し來る二十七頭より本工事に着手する豫定なるが工城十六里餘に亘ることゝて竣工を見るは尙は二十日を要すべしと云ふ

●金村驛新設　京義線一山及汶山兩驛間に新に金村驛を設置し十二月十五六日頃より一般運輸營業を開始す

●木杯下賜　京城尋常高等小學校新築費寄附したる廉を以て曾禰副統監は十一月二十五日曾我勉外十八名に木杯、野田新造氏外十名に褒賞を下賜又仁川尋常高等小學校基本金寄附の廉を以て足立瀧次郎鳥山尋常小學校建築費寄附の廉を以て中島增太郎に木杯下賜せられたり

●韓人の實務練習　韓人にて內部警務科に在りたる見習生六名は一昨日南部署へ實務練習の爲め赴きたり

●岡田松生氏　同氏は一昨日來城菊池讓氏方に滯留中なり

●加納運輸課長の出發　統監府鐵道管理局運輸課長加納喜次郎氏は廿六日京城發新義州に向ふ

●鍋島直暎氏歸朝　鍋島直暎氏は今朝南大門發列車にて歸朝せり

●商工團の歸還　來城中なりし關門商工視察團は二十五日夜出發歸還せり

●警備電話開通　忠淸南道鎭岑連山間の警備電話線十一月廿三日より通話を開始す

●大倉氏招宴　來京中の大倉喜八郎氏は本月二十八日午後日本人俱樂部に日韓人の重なる人々を招宴す

公人私人

▲西[illegible]（海州地方裁判所長）　廿五日歸任

▲加藤政夫（度支部事務官）　廿五日開城へ[illegible]

▲高木國夫（大阪火災門司支店長）　廿五日歸任

▲中尾丑吉（陸軍一等主計）　廿五日入城不知火旅館

▲堀謙（元山監督局長）　廿五日入城浦尾旅館

▲[illegible]（公[illegible]）　廿五日[illegible]

●近事片々

▲統監　公歸任して漢城は何となく賑かになれり韓人の南山に詣ずるもの引も切らず

▲內相　宋氏及次官岡氏の如きは統監出迎の爲め一日前に仁川に下れりとの說もあり

▲異先　に出迎へたる宋氏に對する統監の挨拶は如何なりしか敢て異日と異らざる乎

▲一進　會の現狀よりして宋氏の苦心或は察すべきものあらむされど之れ自業自得也

▲李容　九日本に滯在して尙未だ與ならず一進會なるものゝ運命最早見得て分明なり

▲大倉　喜八郎氏善隣商業學校開校式の爲に來城せらるる氏の來城は他に効力あらん乎

▲大倉　氏は我國商界の奇傑なり其機敏なる點に至りては他に匹敵するものなからむ

▲氏は　由來冒險男兒なり維新當時臺灣西南と其の富を得るや半ば戰爭に關係あるなり

▲氏が　富を爲すや全く其豪膽によりて多くの危險を冒したるに由來す亦得難き事也

▲大倉　氏常に青年を激勵して曰く何ぞ因循小膽なるやと氏にして始めて此言ある也

▲今日　の青年には大倉氏の機敏は或は學び得べきも其豪膽果敢には足元にも寄れじ

▲氏は　柔弱なる青年に向て罵倒を試みらる青年其嘲罵に避易して再び訪はずと云ふ

▲淺野　總一郎氏も奇略あり膽略あれども大倉氏には及ばざる事多し併し各特長あり

▲大倉　氏とは常に合はざる雨敬氏には一すと毀りたる所あり大勢を達觀する明あり

▲大勢　を揣摩する點に於ては雨敬氏或は大倉氏に優らむも緻密の點に於て遙に劣る

▲要す　るに大倉氏は澁澤氏と雨宮氏の中間に位する人格と云ふ者なり果して然る乎

▲翼に　商界に活動して其薯頭を誤らざるに至りては大倉氏獨特の擅場とは適評なり

▲由來　東北には豪膽なる商人出づ錢五を始めとして圓中孫平の如き奇拔の人ある也

▲而し　て最も越後は怜悧なる人物に富む之れ果して直江山城の餘流に出でたるなり



續奇緣(二)

ひで子

颯と鳴る風の、太神宮は闇にもしるき、今宵の南山の、意味あり氣よ。

闇に流れる亂れ燒、九寸の白刄は、男の手に、殘んの雪と煌ひた。

『オイ野麗な、無分別は止しなせい』

[illegible]く、黒の外套の片羽根を、脊中へはねて、自刄を取つた、袂から半帛を、取出してくる〳〵と、白刄を巻いて、內懷へ

[illegible]飽きた、此朝鮮で日本人が、情死をしたのは此間、濟浦とかのが、最初だそうな、何様な事か知ら無いが……』

『ハイ、御親切に恐入ります、私は實は、某商店へ近頃來ました、雇人ですが……』

『此女は十五屋の藝妓でして……』

名月と呼ぶ料理屋あり、一寸妙な板前に、粹人達の贔屓を受けて、十五夜と呼んだ、洒落の名が、いつしか十五屋と知れ渡つて今は名月と呼ぶ人も無い

『御心配しなさんな、金で濟むなら罪亡しに……イヤ一寸心配ひが有りますで、れ男女の命には、何程大金でも形を付けます併し難くて遣り切れない、何處へ行つて殺つくりと、亦私の面白い因縁話も聽かせませう』『さあ』

と外套を先きに立てゝ、若い男女と三人連れ、本町の方へ下りて行く時、摺違つた、巡査が在つたが、一寸一瞥を呉れた切り、斯くして三人の影は消ねた

瀟洒なれど、氣持よく掃除の屆いた小料理家の一室、情死の理由は判つた樣で、獺の外套は、大島の對の羽織で、正面で猪口を頻りに、愉快そうに、干して居る、男女は蕭然に、膝を崩さず、俯き勝に坐つて居る

『私は今夜の樣に愉快に思ふ晩は、本國に生れて始めて……夫れは慈善だ人助けだと、今迄も金は出したが、今晩位氣持の好い事は、有りませんでした、是れで二人が夫婦と成つて、私の家へ鳥渡々々遊びに來て呉れたら、モウ私は命も入らぬ、本國に怎がう成つて下さい

●寒牡丹

……有爲轉變は世の習ひ……

朔風枯木にさゝやいて霜白く、寒月氷の如く照す一昨夜午後十一時頃愛西小門外の坂途を登り來る二人の男女あり男は紛れもなき支那人にて辮髮寛衣軀幹飽迄偉大一見さる富豪の主人とも頷かるゝが女は邦人にて粹な銀杏返しに吾妻コートを纏ひ男と援れつ縺れつして何にやら打ち語らひつゝ軈て門內のさる淸人家に入りたるがサテ之れにはダン〳〵仔細のあることゝ今兎耳子の探り得たるまゝを左に述ぶることゝすべし

淸國人といふは名を孫福成と呼び本年三十三歲生れは芝罘の片田舍先祖代々の豪商にて京城に渡りしが今より六年以前妻子をば國許に殘し專ら牙籌の業に身を碎き居りしが獨身の所在なさには日を經るにつれて閨房の淋しさを感じ折々は店の者の目を忍びて折花攀柳の豪興を恣にし居りしも度重なりては內帑の影響も夥だしくイッソのこと一輪の名花を手折り來りて床の眺めにせんものと那れか之れかと好みの日本婦人を詮索し居る中愛に東京生れのものにて近藤タカといふが其の當時大和町二丁目に住ひ居るを福成いつの間にかタカを垣間見人を以て[illegible]葉に惚れ込み一も二もなく承諾したるより福成の喜び一方ならず直ちにタカをば前記西小門內なる支那人家屋に囲ひ朝な夕なにタカの色香をば愛つることゝはなりたりさるにても女の素性は如何に开は次號の讀みものとすべし(つゞく)

●虎に喰はる

……延日郡守の妻……

京畿道驪州郡北面上縣里居前延日郡守李都郡の妻(五十)本月十五日夜外出先より歸家の際午前一時頃門前に於て猛虎突出して噬殺さる翌朝洞民等屍体を搜索したるに該家を去る二韓里餘の山中に兩足を發見し流血の跡を辱ねて午頭山に到りしに頭骸を發見したるも猛虎は其の行く所を知らず唯茶碗大の趾跡を見たりと

●虫の好き相談

……善哉屋の泣ッ面……

長崎縣生れ若草町一丁目高本方本田要三郎(三十)といふぜんざい屋は近頃の不景氣に更に實入りなくソレに斯う追々と寒さに向つて來ては何分にも身体の大儀な所から何か他に旨い儲け口もと背許りの膝株叩いて智惠袋を絞りしも●●●●●ぜんざい屋風情にドーセ碌な智惠が回らう筈なく上海か大運の富籤かさなくば博賭位が精々關の山イヤサズット下つて玉轉しと衆が湧きポント膝を叩いてこれなら大丈夫と前日の賣り上を懷にし一昨夕南部水標橋一丁目八番地玉轉し業辻野スエ(三十)方に赴きドウラ一番五十兩許り儲けて呉れやうかと始めたりしが更に埓明かず儲ける所か大枚六圓の損失を招きしより奴さん齊い顏になり果ては男の癖に意久地なくも涙ぐみスエに向つて何うか其の金を返して呉れ明日からは飲の喰ひはぐれとなる慈悲ぢや情だトン〳〵と轉臺叩いた嘆願せしもタチは商賣上そんな馬鹿〳〵しいことは出來ず何んぼれ前さんが涙をこぼして言つたとて金は返へしませんよと刎ね付けたるより奴さん已むなく其の場を立ち去り軈て銅峴分署へ出頭し六圓取り戻し方の切願を爲したりしに却つて警官より目玉を喰ひ呀々天道様は情ないとスゴ〳〵と引下りたる由世にも呑氣な奴があるものかな

●八梅の嫉妬

……熊人を一杯〆める……

泥峴は目抜の場所のこととある會社に出勤する中村とかなん呼ぶ芝居の將膿でいふなら二枚目ともいふべき優さ男は獨身者の閨淋しくソレに月々の收入も可なりにある所から兼てより浮れ郷の新町は曾春樓の八梅といふ娼妓に熱くなり末は紋切形の夫婦約束をなし起證誓紙さへ取り交はし切つても切れぬ間柄とはなりたるが近頃に至り男は薩張り女の許に足を向けず音沙汰さへせざるより女は痛く不審に思ひ二三日前電話にて樣子を問ひ是非今晩は噺しがあるから來て頂戴手蹴をついたら肯かないよと繰り返し〳〵念を押し軈て夕刻に至りて男の登樓を待ち居りしに案の條男は登る梯子の足音さへも陽氣にトン〳〵と二階に上り來りしかば女は待ち焦れたりと許りに男をば長火鉢の前へ請じ同時に隙てより閑に明かして揃へ置きし肱突きをば簞笥の抽斗より取り出して男に與へソロ〳〵と恨み辛らみの文句をば並べ始めやうと胸にも溢れて咽迄出たれど今更らながら可愛男の顏見ては何うやら氣が引け其の夜は偶の逢ふ瀨にシッポリと樂みしが男は俄かに夜中頃に至り氣持が惡いからと女が無理に引き留むる袂をば振り拂ひ同樓を出でしより女はもしも他に增す花の出來しにはあらざるやと密に男の後をば尾け行きしに男は其の足にて高島屋に登りたれば女は嫉妬の念ムラ〳〵と起り直ちに家に歸りて男より貰ひしハンカチに朱を以てサラ〳〵と其の夜の始末をば認め書留にて送りたるが男は多分昨日わたり此の手紙に接したことゝなるべしとの投書

●店員評判記

小宮山運送店主任 村田德一氏

氏は山口の產最初よりの目的は軍人であつた、末だ弱冠ならざるに早くも精悍の氣溢身に溢れ加へて剛膽大膽なるを以て容易に人に屈しない、夙に郷里の小學校に業を了へ次で山口の鴻城義塾に入り專ら軍事に關する學科と實務とを學び、追つては陸軍士官學校に入學し未來の將校たるべき希望を抱ひて居つたが、中途一身上の事情より已むなく宿年の目的を思ひ止まり、同時に實業家として身を立てんと志し、神戸商業學校に入學し、在學三年首尾よく卒業證書を懷にすと同時に長崎材木會社の賣買係主任となり、次で幾干もなくして長崎土木會社に入り建築部部長の重任に就き大に敏腕の才名を博した、其の後思ふ所ありて渡韓し、小宮山運送店に入つたのが本年の一月今は着實穩健、陰々たる商人として其の往年血氣にはやりし如き俤を見ない

同支店員 石橋勘次郎氏

原籍は大阪平野町、本年二十二歲、年に似合はぬ遣り手である、現今の地位は通關係り、常に同僚より後れを取つたことがない執務の機敏なる日常に遑なく應酬の輕快なるさながら水の流るゝが如くである、閲歷は土地の小學校を卒業し、次で商業學校に入りある事情の爲め中途にして退學し、同時に神戸市の某商館に入り、外國貿易に從事し、其の後幾干もなくして、或る知人の勸めに依り四十年八月渡韓し仁川小宮山運送店に入り、四十一年八月京城支店詰となつたのである、資性輕敏にして俊秀、奇智頓才湧くが如く且つ算筆は非常に達者なものである

部養生館李寧承振り出しの二百圓約束手形一枚及び富平郡守の國分書外書類三點を入れたる革製の財布を拾得し其の筋へ屆け出

●同可娛欄(廿六)

◎興● 詠● 魚友痴史

(廿二日店員評判記參照)

▲佐藤才次郎君 求人をば補佐とう世に又と無き良き店員を占めた釘もと

▲細田活喜君 向上の信念高尙き天空に

▲伊藤勇次郎君 五体をばいとう事なく商買の道にかけては勇次郎の君

●謹賀扶斯 京城西署舘井洞五十統十二戶 廿五日 青坡病院に送らる

●新年附錄

追々と新年も近寄つて參りました、例に依つて各新聞雜誌社が新年附錄を調製する爲め之が趣向と意匠とにつき今より苦心を重ねて居りますのは每年何所も同じことであります却說本紙は此の來るべき新年に際して何のやうな附錄を調製して愛讀者諸君の眼を喜ばしめやうかと種々樣々と考案を廻らした末、双子六を添付しやうといふことに決定しました、申す迄もなく、双子六は新年に於ける家庭の娛樂法としては最も趣味に富んで居る面白い遊戲であります、而も之が意匠と趣向とは從來有り振れたる陳腐のものではなく極めて嶄新にして奇拔なものでありますツマリ之が內容を一言に申しますと京城の各商店、銀行、會社、旅館、料理店(個人も含む)等を順々に並べ本社を振り出しとして振り始むのであります、思ふに之れ唯に趣味ある娛樂法たるのみならず一面には京城の案內記とも見るべきものであらませう若し夫れ如上の各商店銀行、會社、旅館等に於て一朝之れが双子六中の者となつたならば其の廣告の効能は偉大なるものだらうと思ひます廣告の締切は十二月五日限です

▲新年號附錄▼

●竹園町の出火

昨朝午前二時頃草木も眠るといふ丑滿時俄かにチャンと鳴り響く警鐘に人は各々睡い眼を小擦りながら表に飛び出し火焰の揚る方に我れも〳〵と驅け付けたるが火元は南部竹園町二の一進藤爲次郎方にて既に炊事場を燒失し將に內の鴨居に燃ね移らんとする所を消防夫は云ふに及ばず近所のものや彌次馬連にて消し止め大事に至らざりしが何しろ場所柄のこととて一時は却々の騷ぎなりき損害高は百圓餘なりといふ

●心當りの者はなきや

仁川桃山町隊塚盛二郎方隊塚忠吉(三十六)と云ふ一昨日午後三時頃仁川牛角洞鐵道線路附近にて西

●警報

風強かるべし低氣壓は黃海北部にありて七百五十五ミリメートルを示し東に進むウラジオ附近大雨の虞あり、韓國中部及北部の警戒を要す(二十六日午前九時仁川觀測所發)

●天氣豫報(自廿六日午後六時 至廿七日午後六時)

西の風晴 溫度降る

廿六日午前六時各地氣象概況 昨夜渤海にありたる低氣壓は今朝黃海北部に東進し來り各地共南又東風强く中部及北部は曇天にして南部は晴天なり



（四）（第三種郵便物認可）明治四十一年十一月廿七日 京城新報 （金曜日） 第二百二十號

落語

小丸（一）

桂文治

ヘ、十八番と申すも烏滸がましうございますが、御好みに依つて持前の芝居噺を一席申上げます。是れは忠義者と孝行娘の現はれまする話で、神田の仲町に質屋さんで伊勢屋源兵衛といふ、至つて旦那が良い方で入つしやるので、世間で佛樣と綽名をいたす位、所が其の內儀さんが歿なりまして、商賣に就けて不自由勝ちでありますから、御親類や出入りの者から後添をと勸めますが 源「モウ女房は持たない、娘を一人育てゝ居るから他の良い婿を貰つて、良い婿を取り、初孫の顏を見るのが樂しみだ」といつて、人の勸めも斷わつて居りますが、世間には又斯ういふ所を當て込みに養子をする者がございます。まだ旦那も老い朽ちた年ではなし、首尾能く取り入れば、此の家の內儀さんになれる、間が好かつたら、旦那を手に入れたいものだ、間が惡ければ旦那を食ひ殺して樂はうなぞと、恐ろしい女がある。斯んな奉公人を置き當ると飛んだことになります。旦那樣は外にれ御晩酌を遊ばすか、夕飯の時に一口召上る、其の傍へ來て 女「お酌を致しませう」御飯が濟むと 女「少々御横になり遊ばせ、御腰を擦りませう」なぞといつて、チヤホヤするから、旦那樣も御酒の上で、一寸浮氣な了簡になんなすつて、御手が附いたか御足が縺づたか致して終つてから、醉が醒めると、アヽ飛んだことをしたと、後悔をしてもモウ取返しが附きません。片々は最初から巧んでする仕事でございますから、さうなつたら動きません、據ところなくズル〳〵ベッタリ、奉公人はいつか內儀さんといふことになり、今まで誰や彼れやどいつて居たれ寵さんも、阿母さんと云はなければなりません、所が今までとは打つて變つて、此の女が横の物を竪にも致しません、朝から酒ばかり飲んで、一寸柱へ倚り掛つて爪彈でもしやうといふ按排で、さうかさ思ふと此ういふ浮氣の女だから、髮などは毎日結ひさうなものだが、髮を結ふ暇があれば酒を飲むといふ有樣、頭は日髮にしない代りに稼性はひがみきつて居て、奉公人でも酒を飲む者は可愛がるが、酒の嫌ひの者は往生、商賣柄に似合はない不經濟の女でございます、其中に根が浮氣者だから出入の鍼醫定安といふ者と不義を働らき、出入の者や奉公人も皆な氣が着いて居りますが、町內で知らぬは亭主ばかりなり、源兵衛はさうも氣が着かない樣子 甲「チー內儀さんと定安さんの一件を旦那は知らないのかなア」乙「さうさ、れ知んなさらないと見ゐる」甲「困つたものだ、どうかして旦那に知らせたいものだな」





●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ▲三ヶ月前金 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵稅一ヶ月金 拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一圓四十錢 廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社
京城西署西小門通 電話六六三番